

元気なまちの

鼓動

地産地消

地元で作った新鮮な野菜はおいしい。

■山内悟さん シルバー人材センター会員

現在、赤坂町の遊休農地を借り受け、野菜の栽培をしています。多治見駅北ファームで販売するとともに、市内保育園などに食材を卸しています。

シルバー農園を始めて今年で5年。12〜13種類の野菜を7人で栽培しています。中には、この辺りではあまり栽培していない「※1 コールラビ」「※2 フルティカ」「※3 ビーツ」などもあります。量は無理ですが、新鮮な多治見産野菜を提供していきたいです。課題は販売先が少ないことです。直売できる場所を開拓したいと考えています。

全員集まったの作業は週1、2回です。農業の専門家は一人もいません。私も定年後、研修などで農業を学びました。私たちが作った野菜を喜んでくれる消費者がいることが何よりの励みになっています。農業に興味のある方、私たちと一緒に野菜づくりしてみませんか。

※1 風味や触感はブロッコリーの茎に似ています

※2 糖度が高く食味がよいことが特徴です

※3 赤カブのような根菜です。「食べる輸血」と言われるほど、栄養豊富です



赤坂町のシルバー農園で作業中の皆さん

進出企業による地域貢献事業

私たちは子どもたちの未来を 応援します。

多治見市の企業誘致事業で最も特徴的な「アフターフォロー事業」。市内に進出した企業と良好な関係を継続することで、企業誘致による雇用の創出と税収の確保に加えて、さまざまな波及効果を生み出します。今回の特別企画特集「元気なまちの鼓動」では、数々の波及効果のなかでも、Amazon.co.jp(アマゾン)が子どもたちの成長に貢献する取り組みを紹介します。



ジョブ シャドウ 【JOB SHADOW】

- ①③④ ジョブシャドウは、社員1人に生徒1人が影のように寄り添って仕事とアマゾンの職場環境を見て学ぶ、新しい就業体験プログラム。若者の社会適応能力を育成する経済教育団体である公益社団法人ジュニアアチーブメント日本の協力の下実施
- ② ロボカップ世界大会での一コマ。高校卒業後のジョブシャドウ経験者がボランティアで在校生をアテンドした

ロボカップ世界大会2017で ロボット技術開発者と英語で会話

平成29年、名古屋市内で開催された第3回ロボカップ世界大会において、世界のロボット技術者と交流しました。

■ タイ・ブレイディさん

アマゾンロボティクスチーフテクノロジスト

皆さんは素晴らしいロボット研究者になる可能性があります。より良い社会作りのために、今日の参加者から、ぜひロボット研究に参加する生徒さんが出てきたら嬉しいです。



※ NEXT FUTUREの 一環で アマゾンジャパン目黒本社を見学

■ NEXT FUTURE 松村紗弥さん

たくさんの方からお話を聞く中で「好きなこと」というキーワードが多く出てきました。自分の好きなことを一生懸命にやることの大切さを感じました。自分は何が一番やりたいのかを見つめ直すことができました。



▲松村紗弥さん(右)と加藤奈那子さん(中)



ネクスト フューチャー
【NEXT FUTURE サマーセッション】

⑤国内初導入の「アマゾン ロボティクス」を見学。最新の物流拠点の仕組みを学んだ ⑥⑦⑧ジェフ ハヤシダ社長をはじめ、グローバルカンパニーの経営者はどんな大学生活を送っていたのか。大学卒業後から現在までのキャリア形成などを熱心に聞いた ⑨アマゾンの若手社員とのセッションでは、社員のリーダーシップについて学んだ ⑩多治見出身の下垣典弘さん(アマゾン ウェブ サービス ジャパン エンタープライズビジネス本部長)とも交流

多治見出身者として、とてもエキサイティングでうれしい1日でした。来社してくれた母校の卒業生が「こういう考え方や意見もあるんだ」と社会人になるための刺激になってくれれば、本当にうれしいです。



▲NEXT FUTURE サマーセッションの参加者たち

■下垣典弘のりひろさん

アマゾンウェブサービスジャパン
エンタープライズビジネス本部長

高校1年生の時にジョブシャドウに参加した生徒たちが成長し、東京でまた会えたことを大変うれしく思います。大学生になった今、自分の将来像を明確にする準備期間として、学業や研究に生かしていただけると幸いです。アマゾンは今後も、地元の若者の未来を応援するための地域貢献活動を継続していきます。

■ジェフ ハヤシダたけしさん

アマゾンジャパン合同会社社長

地元の若者の未来を応援するため
ジェフ社長とのサマーセッション

※高校卒業後のジョブシャドウ(職業体験)参加生徒を対象としたアマゾンの人財育成プログラム

「何でも、やるからにはプロを目指す」とのジェフさんの話を聞いて、今の自分の生活に自信ができました。

また、アマゾンの新入社員が「好きなことをやるのが今の仕事や生き方につながっている」と話していたことが印象的でした。

■NEXT FUTURE 加藤奈那子ななこさん

あなたの創業、応援します。

起業支援センター（産業文化センター内）には、創業間もない事業所やこれから起業される方を対象としたB-I（インキュベートルーム）が9室あります。ここに入居し夢を実現させた経営者たちと園原マネージャーにお話しを伺いました。



創業を決意した時

青木 私が以前勤めていた会社は社員が少なく、自分の業務（技術系業務）以外の仕事もほぼ全てやらせていただいていた。そうした職場環境だったこともあり、独立してもやれるかもしれないと思うようになりました。

鳥飼 私は過去に金融機関の契約社員として東京・名古屋で働いていました。同僚の助言もあり、正社員として働ける会社を探しましたが、年齢、性別、学歴の壁に阻まれて思うようにいかず、起業を考えるようになりました。

水野 私の場合は、子育てが一段落したのがきっかけです。15年にもわたるハーブやアロマセラピーの講師としての経験を生かしたかったこともあり、自分の好きなことを今こそやろうと思いました。

園原 これまでに28社がこのB-Iを卒業し、うち24社が市内で商売を続けています。商売が一番大事なのは人脈です。B-I入居者は、起業支援センターで開催する各種相談会やセミナーの参加者とも積極的に交流をして、創業者同



マネージャーとB-I入居者を紹介



そのほらしんご
園原信五さん

企業支援センター
マネージャー

起業支援センターのマネージャーになって3年経ちました。その間、起業を志す多くの方から相談を受けました。主に、起業しようとしている事業が経営上実際に成り立つのか、具体的にどんな手続きが必要なのかなどの相談が多いです。前職の金融機関での経験がここでは大変役に立っています。



あまひと
青木彰人さん

株式会社アロン
代表取締役

産業用計測器や企業用の機械をプログラムで動かす電気装置（制御装置）などを作る会社を立ち上げて1年になります。園原マネージャーに相談することが多く本当に助かっています。



とりかい ともみ
鳥飼友美さん

株式会社
コンフォートデコ
代表取締役

3Dソフトを使って、建築物や家具、工業製品などのプレゼンシート、パス、PR動画な



久田伸子さん

市役所経済部
産業観光課
たじみビジネスプラン
コンテスト担当

管理セクションから事業課へ

入庁して以来、企画や財政といった管理セクションがほとんどでした。長年の希望が叶い、事業課へ異動したのは昨年4月。仕事へのスタンスは以前と変わりませんが、現在の仕事には今までとは違ったやりがいを感じています。また、いろんな方と出会いお話しする中で、さまざまな発見もあります。結果的に、そういった周りの人に支えられ、私の仕事は成り立っているのだと実感しています。

ビジネスプラン コンテスト



現在、市は「たじみビジネスプランコンテスト(以下、Tajicon)」の参加者を募集しています(8月31日締切)。昨年まで中心市街地活性化施策として実施していた「家賃補助制度」を見直し、ダイレクトに多治見の元気につながるアイデアを提案できるやる気のある方への支援を考えました。同時に、多治見市のコンパクトシティ構想の中にもTajiconを盛り込みました。国(国土交通省、内閣府)が進める「地方再生コンパクトシティ*(全国で32都市)」に選ばれたのも、中心市街地活性化施策を絡めた多治見独自のビジネスプランコンテストの実施が評価されたのだと思います。

実は、島根県江津市が移住定住を目的に8年前からビジネスプランコンテストを実施され、成果を出されています。一方、多治見市のビジネスプランコンテストは、商店街や創業支援のネットワークを広げることを目的にしています。私がTajiconに期待するのは、「手堅く集客してもらう提案」です。そして、多治見のまちづくりに参加する人材を発掘したいと思っています。

住むところを仕事で決める人が多い

江津市の事例にもあるように、住む場所をどこで働くかで決める人は多いです。移住定住を考えたとき、医療、教育などの環境も重要ですが、最も効果的なのは「労働施策」ではないかと、現在の仕事を通して改めて気づきました。

※都市のコンパクト化と地域のかせぐ力の向上に、ハード・ソフト両面から取り組む地方再生のモデル都市

士のつながりを大事にします。
鳥飼 私はB1に入居した後、園原マネージャーや市職員の皆さんの話を通して今まで気付かなかった多治見の良さを知りました。
青木 私がここに入居する時に、園原マネージャーから出された条件は、前の会社を円満退社することでした。同業種の前職場と良好な関係でいることは、商売をする上で非常に大切だということを知り、起業してみてもいいなと思いました。
水野 同期入居の鳥飼さんとは、創業支援セミナーで知り合いました。下積みや経験がないのに、会社を立ち上げようとしている彼女から私は勇気をもらいました。一人

は孤独ですが、ここでは仲間がいて、園原マネージャーが言うように、創業者仲間とつなげていただけるのが心強いです。
地元のために私ができること
青木 ずっと何かしたいと考えてきましたが、「少年少女発明クラブ」という組織があることを知り、多治見の子どもたちに「技術」の面白さを伝えたいと思うようになりました。
鳥飼 居住空間をお客様に提案する中に地元のタイルや家具を効果的に使っていきたいと考えています。そのために、どの会社でどんな

ものを作っているのか、しっかり把握する必要がありますが、ここはそうした会社と出会う機会もいただけるのでありがたいです。
水野 多治見で心と体を癒やしてくれるハーブを庭に取り入れる家庭が増えることで、やさしいまち、住みたくなるまちになるのではないかと思います。活動をしています。それがいざれ「まちの魅力」の一つになればうれしいです。
園原 一人でできることには限界があります。事業は団体戦です。多くの人脈と情報を得ることが第一です。その上で、いろんな壁にぶち当たったり、それを乗り越えて、成長していったほうがいいと思います。

品質の良いハーブを輸入、調査して、ハーブティーやアロマ商品を企画・開発しています。派遣社員として働きながら、数多くのハーブやアロマセラピーの講師を勤め、オンラインショップも立ち上げました。1年半前、多治見市主催の創業支援セミナーを受講したのをきっかけに創業することを決めました。



水野さと美さん

シュクレ
メディシナル
ハーブ 主宰

どを製作しています。その他インテリアデザインを任せていただくこともあります。B1に入居して1年半。充実した毎日を過ごしています。